

逗子への巡検

二年 梅月 睦子

逗子へ行つてはつとしたとたん「これはミルト岩で泥岩とまじり----」とさつぞくノート取りをせねばならぬとなつた。後の道で車が大きな音をたてて走っている。先生の声がよく聞えない。人のノートをのぞき見る。すると更に次の所がわからなくなる、とにかく一介の余裕もない。巡検というとすぐ浮んでくるのは忙しいことである。その場所での説明が終り、他の場所へ移動する。そこでやつと息をつく。次の場所へ移つてから又前と同じようにせつせとノートを取る。

途中における空の青さ、山の緑、どこも美しい。都会とはまるで違つた雰囲気、幼い頃を思い出す。すばらしいなあ。次に浮かぶのが自然の美しさである。逗子海岸でのある雄大さ、波の音、空と海との調和、潮風の匂い、本当にすばらしい。巡検でなく一人でぶらぶらと今度来てみようとは何度か心の中でくり返す。

午前中何が何だかよくわからなかつた事も午後になると、ここらの地質構造はこうなつていんだなああとやつとわかるようになる。自分の頭の悪さをつくづくと感じさせられたのも巡検で浮かぶことの一つである。

浅海先生の巡検

三年生

今回の巡検は、1月から巡検地の論文発表による勉強に基いて、行われました。上級生から浅海先生の巡検は、歩くことが多いし、昼食も喰べられないこともあつて、大変だと聞かされていましたが、今回は例外らしく、昼食も時向には喰べられたし、重い荷物は、駅などに預けて、身軽に歩けたし、夜の勉強も一回きりなかつたので、疲れもせず、楽しい巡検でした。

一日目、東田子の浦では、景色のすばらしい海岸で、ルートマップを作る為にはハンドレベルで高土の測定をし、又土地改良後の浮島ヶ原に行き、ボーリングを行つたが、この時になつて、初めてヘラと棒のないのに気がつき、仕方なしに、代用品で固に合わせました。金谷では、茶の海の牧の原台地の原面へ行き、ボーリングなどを行つた。宿では、まだ疲れが足りないと思ひ羨容体操をしている元気な人達もいました。

二日目、台地原面の丸尾原と萩岡川への向では、露頭と段丘の観察。